

環境委員会資料

令和2年5月27日

## 所管事務の報告

- 1 令和元年東日本台風による排水樋管周辺地域における浸水被害  
に関する検証結果の町内会等への説明状況の報告について

上下水道局

## 令和元年東日本台風に係る検証結果の町内会等への報告について

### 1 これまでの経緯について

令和元年東日本台風により、本市においては、これまで経験したことのない多摩川の水位の影響を受け、排水樋管周辺地域において、深刻な浸水被害が発生した。

これを受け、令和元年12月27日から、検証委員会を計4回開催し、浸水原因等の検証と次の雨季までの短期対策及び中長期的な対策の方向性について検討を行い、令和2年4月21日に検証結果の公表を行った。

今後、排水樋管周辺地域の地元に対して検証結果の説明会を実施する予定であるが、新型コロナウイルスに係る社会情勢を踏まえ、まずは、19町内会等の会長及び役員に対し、4月23日から5月1日までの間に検証結果の報告を行った（※）。

※新型コロナウイルスに係る情勢等を踏まえ、現時点で説明を受けることを希望しないとの町会側の意向により、今回報告できなかった3町会（中丸子共明会、下野毛町会、諏訪第2町内会）については、後日改めて説明を実施する予定。

### 2 町内会等への報告の概要について

- ・市側から「令和元年東日本台風による排水樋管周辺地域の浸水に関する検証について」（概要版）により20分程度の説明を行った後、質疑応答の時間を設けた。
- ・その他に参考資料として「令和元年東日本台風による排水樋管周辺地域及び河川関係の浸水に関する検証報告書」（「Ⅲ 河川関係の浸水に関する検証」に係る部分を除く。）を配布した。
- ・地域住民への住民説明会の実施時期等については、新型コロナウイルスの状況を踏まえて、改めて調整させていただきたい旨を伝えた。

### 3 町内会等側の主な発言内容

別紙参照

検証結果の報告を行った町内会等について

	区	樋管	町内会等の名称	町内会等側の出席人数	日程
1	中原区	山王	下沼部町内会	6名	4/27(月)14:00~15:00
2			中丸子西町会	1名	4/27(月)10:00~10:40
3			中丸子中町内会	1名	4/23(木)14:00~14:50
4			上丸子山王町1丁目町会	6名	4/28(火)10:00~11:20
5			上丸子山王町2丁目町会		
6			上丸子住宅自治会	3名	4/27(月)16:00~17:40
7			上丸子八幡町町内会	5名	4/28(火)19:00~20:10
8			新丸子東町会	3名	4/30(木)14:00~14:50
9			新丸子東2・3丁目親和会	1名	4/23(木)10:00~10:40
10			市ノ坪上町会	2名	4/30(木)14:00~14:50
11			市ノ坪仲町会	1名	4/30(木)10:00~10:40
12			タワーマンション (エリアマネジメント)	6名	4/25(土)10:30~11:45 13:30~14:30
13		宮内	宮内自治会	2名	4/28(火)14:00~15:40
14	高津区	諏訪	諏訪第1町内会	1名	4/25(土)14:00~14:40
15			北見方町会	8人	4/29(水)14:00~15:40
16		二子	二子第3町内会	3名	4/24(金)10:00~10:54
17			二子第4町会	3名	5/1(金)10:00~10:50
18			宇奈根	宇奈根町内会	1名
19	多摩区	堰町会		10人	4/24(金)18:00~19:30

## 町内会等側からの主な発言内容(1/3)

### ●当日の被害について

- ・40年住んでいるが、こんな水害は初めてだった。
- ・ゲートを閉じていたほうが、河川水の逆流による土砂被害が少なくて済んだのではないかと説明  
→検証結果を用いて当時の対応を説明
- ・東京都側はゲートを閉めていたので乾けば住めたが、川崎市側はカビのせいで住めなくなった。泥が入ってきて、除去するのが本当に大変だった。  
→今後は、逆流防止のためのゲート操作手順を見直したので、泥の被害はなくなると説明
- ・ポンプ車の訓練を中部下水道事務所で毎年やっていたが、今回いざやってみたらすぐに撤収になり役に立たなかった。  
→操作手順の見直しと排水ポンプ車を導入することを説明
- ・当日の多摩川流域での連携(情報共有体制など)について、住民に説明できるようにしてほしい。  
→住民説明会で説明できるよう準備しておくとの説明

### ●今後の対策について

- ・二度と同様の被害が起きないように対策を講じてほしい。台風だけでなく、ゲリラ豪雨によっても同様の被害が起きるのが心配である。  
→内水排除に向け短期対策を進めるとともに、引き続き中長期対策について検討を進めていくとの説明
- ・中長期対策は10～15年とあるが、早めることはできないのか。  
→規模が大きく、設計期間も必要なので、ある程度の期間を要するが、引き続き取組を進めていくとの説明
- ・ダム of 事前放流も含めて多摩川全体で対策してほしい。河床が昔より上がっているのを、浚渫してほしい。  
→多摩川の水位低下に資する取組について、流域の自治体や国と連携を進めていく。また、河床掘削等について国へ要望していくとの説明
- ・観測機器のデータ等について、区役所や消防等の行政機関との間で情報共有を図ってほしい。住民にも水位情報を提供して、危険性を周知したほうがよい。  
→区役所等の関係機関と連携していくとの説明
- ・下手にゲートを閉められても内水氾濫が起きるので困る。ゲートの操作手順の見直しに当たっては、判断にブレが生じないこと及び被害を最小化することを目指したものにしていきたい。  
→今回お示したフローで確定というわけではなく、蓄積される観測機器のデータを踏まえて見直ししながら、より良いものにしていきたいとの説明

## 町内会等側からの主な発言内容(2/3)

・短期対策により浸水は軽減されるとのことだが、全ての被害をなくすことはできない。局地的に浸水するところは別途対応してほしい。

→引き続き中長期対策について検討を進めていくと説明

・避難所の動きが遅かった。ソフト面では町会も役に立ちたいのでマニュアルの充実や、情報の発信を望む。市でも縦だけでなく横の連携を強化してもらいたい。

→いただいた御意見を踏まえ、関係機関と連携していきたいと説明

・自助・共助の観点から、住民の中から観察者として協力してもらって、情報収集するというやり方もあるのではないか。

→浸水範囲については、市で把握できる範囲には限りがあるので、検討させていただきたいと説明

・人員の配置についても考える必要がある。

→排水樋管に貼り付ける人員については3名交替で考えている。今後も御意見があれば活かしてまいりたいと説明

・順流と逆流を機械でうまく感知できるのかわからないが、人の目も入れて開閉の判断をしてほしい。

→開閉の操作は現地での操作を基本とすると説明

・国交省からの通知について、河川と下水は異なるという説明があった。しかし、河川も下水も同じ効果を目指しているのだから、国が違いを統一し、コンバージョン(※)したものを出すようにしないといけない。

※・・・改造、改変を意味する。

→御意見として伺うとともに、今後は順流が確認できなければゲート閉とする操作を行う旨を説明

・排水ポンプ車4台では足りないのでは、もっと増やしてほしい。ポンプ車が足りない場合は、他の自治体や国に応援を求めるというが、必ず来るという担保はあるのか。

→排水ポンプ車を増やすのは難しいこと及び国との連携を進めることを説明し、その後再度要望された。

・ポンプ車を2台、3台設置した場合のシミュレーションはないのか。

→短期対策として実施する内容の効果についてシミュレーションを実施したことを説明

・排水区に降った雨水を全部諏訪の排水樋管に集めるのではなく、上流側で分流して排水するようにしてほしい。

→中長期対策の具体化において、流域変更についても検討を進めていくと説明

・昭和49年の粕江の水害や、その前の昭和34年の狩野川台風、昭和41年の水害など、もっと古い水害について地元の人意見を聞いてほしい。生産緑地に水が流入したことにより浸水の影響はずいぶん緩和されたと思う。

→説明会の際に地域の方の御意見を伺うことを説明

## 町内会等側からの主な発言内容(3/3)

### ●情報提供について

- ・検証結果や対策の進捗状況についての情報発信をしてほしい。  
→ウェブサイト等で情報提供することを説明
- ・Webサイトだけでなく、回覧、掲示板、各戸配布など紙での情報提供も実施してほしい。  
→紙での情報提供を行う旨を説明
- ・地域住民への周知については協力したいが、新型コロナウイルスの影響で理事会や回覧も停止しているケースもあるため、情報提供の方法を考えてほしい。  
→今後、町会と調整させていただく旨を説明
- ・住民説明会は新型コロナウイルスの状況を踏まえて、速やかに実施してほしい。  
→社会情勢を見極め、町会と調整の上、速やかに実施すると説明

### ●説明後の要望事項

- ・行政として責任があるのではないか。床下もバキュームで清掃してもらいたい。